

【政】初回買入入札 4 月 14 日
農水省、3 カ月おくれの実施公告
予定価格 2 万円台か

農水省は 13 日、令和 7 年産で実施を見送った備蓄米の政府買入入札を再開し、8 年産を対象とする第 1 回入札を 4 月 14 日に実施すると発表し、21 万トンの買入予定数量（枠）を公告した。8 年産の出来秋の価格水準に対して一定の下支え効果が見込まれるのに加え、7 年産のスポット取引にも影響が及ぶと予想される。

買入枠の設定は、従来通り適正備蓄水準の 100 万トンを 5 年間で非主食用に消化していく考え方（＝棚上げ備蓄）による 1 年分の 20 万トンに、TPP11 分（SBS 豪州枠相当）の 7521 トンを加えた 20 万 7521 トンとなる（下表参照）。

8 年産備蓄米の産地別優先枠の買入予定数量（t）

産地	8 年産 優先枠	前回差	産地	8 年産 優先枠	前回差
北海道	10,001	▲ 243	長野	1,352	± 0
青森	25,233	± 0	岐阜	483	▲ 3
岩手	3,482	▲ 3	静岡	19	± 0
宮城	11,972	▲ 32	愛知	722	± 0
秋田	15,589	± 0	滋賀	1,159	± 0
山形	20,429	▲ 11	鳥取	389	± 0
福島	31,606	▲ 242	島根	126	± 0
茨城	666	± 0	岡山	191	± 0
栃木	5,879	± 0	広島	57	▲ 1
埼玉	204	± 0	徳島	301	± 0
千葉	681	▲ 1	高知	10	± 0
新潟	25,932	▲ 66	福岡	35	± 0
富山	11,880	+ 1,619	大分	91	± 0
石川	7,841	+ 6,967	合計	180,000	+ 7,984
福井	3,670	± 0			

(注) ①「前回差」は、6 年産落札実績（一般枠分を含む）との比較

②優先枠とは別に、一般枠（産地指定なし）2 万 7,521t の提示がある。

他県からの競争を抑制する産地別優先枠 18 万ト (6 年産の売り渡し落札実績を反映) と、産地を指定しない一般枠 2 万 7521 トに分けて買入枠を提示している。優先枠の設定手法も従来と変わらない。

優先枠は、数量の多い順に①福島 3 万 1606 ト②新潟 2 万 5932 ト③青森 2 万 5233 ト④山形 2 万 0429 ト⑤秋田 1 万 5589 トと提示されている。上位 5 県で合計 11 万 8789 トとなり、総買入枠の 57%を占める。

一般枠は総買入枠の 13%のボリューム。6 年産の場合、一般枠分の落札実績は▽北海道 5558 ト▽青森 817 ト▽岩手 70 ト▽秋田 1077 ト▽山形 245 ト▽福島 5553 ト▽茨城 50 ト▽栃木 106 ト▽千葉 40 ト▽新潟 1499 ト▽福井 1170 ト▽岐阜 63 ト▽広島 30 ト▽徳島 66 トの合計 1 万 7054 トだった。

政府買入予定価格を超えず安い順に落札させる手法は従来と変わらない。政府買入予定価格はこれまで通り非公表。業界内では、今回の公告とタイミングを合わせたかのように農水省主導で米穀機構から今月 6 日に取りまとめられた「コメのコスト指標のイメージ」が注目されている。

コスト指標は、生産・流通などの各段階で採算割れを防ぐ観点から算定した「コストの積み上げ値であり、利潤を含まない」という性格上、政府買入予定価格との“親和性”が高いとみなされている。

今月時点として示されたコスト指標の川上までのイメージは、60 ㌦当たり税込み▽生産段階 2 万 0437 円▽集荷段階 2 万 0544 円一の合計 2 万 2981 円。税別換算は 2 万 1279 円と算出できる。これに集荷業者の手数料を上乗せすると、2 万 2000 円程度が妥当な買入価格水準として想定できる。